

せきせいもぞうひん 石製模造品とは

実物を忠実に模して造られたものであり、主に石室に埋納されます。
当時、食糧生産技術である農耕は最も重要な技術でありました。
死者を埋葬する人々が、死者に対して来世においても農耕などの様々な技術をまとめるリーダーとしての存在を示すために石材を使用した模造品を副葬する習慣ができたと考えられています。

石製模造品は大切にされていた器物きぶつを模したものです。武器武具・農工具などの実物を被葬者が集積する時期もあったことを考えると、石製模造品はこれらの被葬者個人の副葬されるべき製品を原形としていることが分かります。

時代：主に古墳時代中期

材料：滑石などの柔らかい石材

形状：武器武具類や刀子とうす・斧・鎌等の農工具など



写真：群馬県立歴史博物館提供

尾崎喜左雄博士が発掘調査を行った、鶴山古墳の竪穴式石室から出土した石製模造品の一部です。

刀子とうすと呼ばれる、工具用の小刀を模して造られたものです。
全部で26個出土し、全長4.6～13.1cmと多種でありました。